

る隆起の時期とが週期的に起つた時代である。この結果として數段の段丘を地表に印し、谷底には平衡曲線の異常な來らしめた、この時代にあつては前時代に猛烈であつた斷層作用及び火山作用はその力を弱めた、併し尙その餘勢があつた、週期的隆起の結果は段丘となつた、三〇〇米段丘形成時代、二〇〇米段丘形成時代、一〇〇米段丘形成時代、この時代はプライストシオン期で、隆起の總量は三〇〇米位であつたらう。四、下位段丘形成時代、1、沈降時代 2、隆起時代この時海岸に三〇米段丘を形成する、沈降時代(現代)であらう。(F)

新著紹介

○本邦各火山文獻集

(明治大正年間) 原田準平編
古今書院パンフレット 七四頁 定價九拾錢

日本の火山に關し本邦發行の主な雜誌報告等に掲載された文獻を火山別に排列した書目である。地學專政家や科學を重んずる旅行者に執つては甚だ便利有益なものである。本文獻集には單行本をあげず、又學藝志林や地學協會報告や東亞自然及民俗協會報告中のものなどを採録してゐない。又卷末には外國で刊行されたものを一頁だけあげてゐるが到底満足なものではない。紹介者は本地球誌上に何れ本文獻集を補足するべくこれ等の省略された文獻を集めたものか掲載する心組である。(N)

○地理教材研究第十二輯

日黑書店發行
定價一圓五十錢

本集には佐々木清治氏の門前町の研究が光つてゐる。宗教都市の成立を論じ鳥居前、寺院門前、御陵門前の三種類を説明し、比叡山の坂本は往古の發達した形骸を残すに過ぎないと論じ、門前町の特殊形相として假設店舗の多いことや、やがて茶屋の永久的の料理屋酒舖になることをのべ豊川稻荷門前町の實例をあげてゐる、最後に門前市場の話も面白い、この一篇の外に、久留米市、米子市、名古屋市の商業、石油の地理、臺灣、新パレスタイン、アルメンの構造、和歌山縣の飛地、日本の瑞西椿原村、雪の長岡市、十年後の秋田市以上大小十二篇、十二輯だから十二篇といふ因縁でもないがまづかうした各篇と第一輯以後十二輯までの總目次がついてゐる。編輯帷子學士の努力を感謝する。(藤田)

○經濟地理の教養

田中蕪著
古今書院發行

神戸高商の講師である田中蕪氏が神戸の自由學園の普通科四年五年と高等科一二年生に引續き講演されたセミナー式の演習の總決算として出來た本である。女學校の生徒でも指導すればこれ位の本はかけるといふよい參考になる。第一章地理學の發達から河川文明、内海文明、海洋文明、内陸文明世界の現勢といつた風に世界地理の歴史的考察が若い女學生の頭の中で考へられて、而して書き上げられたのであるから讀んで之より學ぶといふ參考書ではないが、之によつていかに世界觀が整頓されたかといふ道行を知るには十分であると信する一部は田中氏のかうした努力が二百五十頁(一圓六十

錢)のこの一小冊子となつたことを見て著者の留學に先だつての會心の笑ひを想像するものである。(F)

雜報

○夏期學校から

本年八月一日より二十二日に至る京都府教育會の夏期學校は、殆ど全國の篤學者を集めた、中には地理科は、北は北海道から南は臺灣にわたつて百八十名の講習員が來會して、いかにも盛んなものであつた。地球學園の諸先生の奮闘もさることであるが、連日六時間百二十時間といふ長期の大講習をうけつゝさて歸つてから下宿や寄宿舎に居る我來會の諸君は夜の十一時迄もノートの整理に従事して、六々敷い地圖學や地形學に新たな智識を得て喜ぶこと限りがない。講師から見た滿堂の聽講者の眞摯さは蓋し類例が少い、短期の夏期の講演會などでは見るべからざるの眞劍さがあつた。京都府教育會はかうした成績を見て我地球學園に心からの感謝をささげたいと云つてゐる。

○北支那沿岸の航路網

北支那沿岸とは大連、天津、青島の三港鼎立的位置の間である。この三大港に營口、安東、芝罘、威海衛、龍口等の諸港を加へる。この區間の中心は大連で天津、芝罘、安東、青島、龍口等皆大連と往復する航路がある。

大連天津間には大連汽船の大連天津線、大連安東天津線あ

り前者は天津丸、長平丸、一ヶ月十航海、後者には天潮丸と濟通丸、月六回の往復をする、昨春來白河の流砂堆積溯航不能の爲前記天津、長平の二船は大連上海線に廻はされた。

大連安東間、は右の一線の外政記公司の大連青島安東線及大連龍口安東線を以て連結する。廣利有利の二船にて月四五回の航海する。但し安東は冬期結氷する爲、同期中は中止。

大連山東間には、大連汽船(大連、龍口、登州府線)田中商社(大連芝罘)政記公司(大連、芝罘)阿波共同(大連、芝罘、威海衛)の諸線がある。配船は阿波共同の廿一共同丸、十六共同丸の千噸級を除き、大汽の龍平、田中の海壽、海響、政記の永利等皆數百噸の小汽船である。航海度數は阿波共同及大汽の各船は月六回、他は隔日往復である。本航路は出稼營力の渡滿と更に近時國內の戰亂に迫はるゝ避難移民の渡來で大繁昌を呈する。猶營口を基點とする驛興輪船公司が營口より天津、龍口、芝罘、青島へ配船し屢々大連に寄港する。

この外に重要なのは大連から他の海港にゆく航路で大連上海線月十回、大連營口阪神線月一回、大連芝罘仁川線月四回、大連仁川線月四五回、高雄大連線月三回、大連大阪線月十一回、南北支那線年二〇回、大連香港線、朝鮮長崎大連線月四回、朝鮮北海道大連線年二十回宇品糸崎大連線月一回があるが、中支那との連絡が不十分である。

遼洋航路に於ては大連によるものは少い、多くは中支那、南支那に引かれるがそれでも内外を合せて二十一線は北支那に回航するといふ。